

基準4 学生

4-1 アドミッションポリシー（受入れ方針・入学者選抜方針）が明確にされ、適切に運用されていること。

《4-1の視点》

- 4-1- アドミッションポリシーが明確にされているか。
- 4-2- アドミッションポリシーに沿って、入学要件、入学試験等が適切に運用されているか。
- 4-1- 教育にふさわしい環境の確保のため、収容定員と入学定員、及び在籍学生数並びに授業を行う学生数が適切に管理されているか。

(1) 4-1の事実の説明（現状）

大学が求める人物像

本学は基本理念に基づき、学生の個性を尊重し、実社会に役立ちICTに精通した国際的人材を育成することを目標にしている。そのために本学が求める学生像は、

「基礎学力を身に付け創造性や個性を伸ばしたい人」、

「どのような分野にも精力的にチャレンジする意欲のある人」、

である。このように意欲があり創造性や個性のある学生を受入れるよう、入学者選抜方針を定めている。

「バイオニクス学部」、「コンピュータサイエンス学部」および「メディア学部」の各学部はそれぞれの教育目標に応じて表4-1-1に示すとおり、人物像を明確にし、それらを志願者に明示している。

表4-1-1 学部が求める人物像

【バイオニクス学部】

生物がもつ機能や仕組みをよく理解して、その知識を工学技術と融合させ、人に役立つものを実現させるバイオニクス学部の目標に賛同し、意欲的に勉学・研究に取り組む人。

【コンピュータサイエンス学部】

コンピュータのしくみ、コンピュータを結んだネットワークのしくみ、またはこれらを利用したシステムの設計などに興味があり、必要な知識や技術を修得して社会に貢献できるものを創り上げていく意欲のある人。

【メディアサイエンス学部】

デジタル技術の飛躍的進歩によって、アニメーション、音楽、ゲームなどのコンテンツ制作の方法が大きく変わり、その応用分野も広がっている。デジタルメディアを深く理解し、仕事や暮らしに活用したいという強い意欲を持った人。

（「2007年度 A0 入試スタート！」抜粋）

アドミッションポリシーの周知

アドミッションポリシーは以下に示すさまざまな方法で関係者に説明し、周知に努めている。

・大学Webによる広報

Webは重要な広報媒体であり、受験生、高校教員などに向け大学の教育目標や受け入れ方針など、さまざまな情報を提供している。資料請求の入口としても重要な役割を果たしている。

・ 大学案内等のパンフレットによる広報

詳細な大学案内（All ABOUT）を請求に応じて受験生、高校生、保護者、高等学校教員に対して配布している。

・ 対面による個別の周知

高校における進学説明会および進学相談会、教職員による高等学校訪問、在学生の出身校訪問により、高等学校などで個別に開催する説明会において、対面により受け入れ方針の周知を図っている。

・ オープンキャンパスによる周知

毎年数回開催するオープンキャンパスでは、各回1,000人規模の参加者があり、模擬授業や実験を体験するコーナーを設け、教育方法の理解促進を図っている。同時に、入試相談コーナーを設け、資料や口頭で大学の受け入れ方針の周知を図り、かつ、入試に関する質疑により、選抜方法等についての理解を促進している。

入試形態と入試方法

受験生の多様なニーズに対応し、かつ、本学の求める学生像に合致した志願者を選抜するために、表4-1-2に示すとおり、さまざまな入試形態を用意している。

表4-1-2 入試形態および入試方法

入試形態		入試方法
AO入試		本学を第一志望とし、各学部の求める人物像にふさわしい者、エントリーシートによる第一次選考ののち、第二次選考を実施する
指定校推薦		本学を専願する者で、 ・各指定校に通知済の全体の評定平均以上の者 ・当該学部での勉学に強い熱意を有し、かつその適性があると認められる者で、学校長が責任をもって推薦する者 書類審査および面接の結果を総合して選抜
自己推薦		本学を専願し、次のいずれかの資格を有している者 ・外国語、情報処理等の分野において、高度な資格および優れた能力を有する者 ・高等学校もしくは中等教育学校後期課程において、生徒会・学園祭などで役員として優れた能力を発揮した者 ・コンクール・大会などでの入賞者など文化・芸術・スポーツ活動で優れた実績のある者 ・高等学校もしくは中等教育学校後期課程において、履修した教科の中に少なくとも1教科優れた学業成績を修めた者<教科の指定はない> バイオニクス学部およびコンピュータサイエンス学部：書類審査、基礎理解力テスト（数学・英語）および面接の結果を総合して選抜 メディア学部：書類審査、小論文および面接の結果を総合して選抜
一般選抜	A日程	・3教科から受験時に2教科選択（150分）
	B日程	・全問マークシート方式
	センター利用試験前期	・「2教科2科目型」、「3教科3科目型」、「3教科4科目型」から選択（併願可）
	センター利用試験後期	・「2教科2科目型」
センタープラス試験		・書類審査および大学入試センター試験の得点と本学個別の学力試験の結果を総合して選抜
外国人留学生		・日本国籍を有しない者 ・独立行政法人日本学生支援機構が実施した「日本留学試験」のうち、本学が指定する科目の成績と面接を総合して選抜
編入学試験		【2年次編入】 ・他の大学に1年以上（休学期間を除く）在学し、34単位以上修得したものとおよびこれに該当する見込みの者 【3年次編入】 ・他の大学に2年以上（休学期間を除く）在学し、62単位以上修得したものとおよびこれに該当する見込みの者 書類審査・筆記試験および面接の結果を総合して選抜
大学院 一般入試		・出身大学等の成績・研究計画書および面接試験で選考 ・学内推薦制度：本学学部出身者に対し、指導教員の推薦と修士課程での希望指導教員の内諾が得られている場合、面接により進学できる制度
大学院 社会人入試		・実務経験が2年以上ある者 ・実務経験等を記載した履歴書・研究計画書および面接試験で選考

- ・ 編入試験

本法人専門学校をはじめ高等専門学校などから多くの編入学生の受入れを行っている。

- ・ 外国人留学生

全国的に増加している外国人留学生に対応するため、外国人留学生入試を行っている。

- ・ 多様な学習履歴者への対応

さまざまな学習履歴を有する社会人に対しては、応募者があるごとに入学資格個別審査委員会を開催し、本学への入学資格審査を行っている。

- ・ 身体障害のある受験生への対応

身体に障害がある受験生については、要求に応じ、受験時の対応および入学後の学習や学生生活の支援体制等について説明を行っている。それにより、大学としては当該受験生のニーズを的確に把握するとともに、受験生は支援体制全般を理解し、受験や就学が可能かを判断している。

- ・ 大学院学生への対応

大学院生については一般入試（学内推薦を含む）と、社会人入試を用意している。社会人入試は、実務経験が2年以上ある受験者を対象としている。

入学者の状況

a. 学部別入学状況

最近5年間の学部別入学状況を表4-1-3に示す。全学部の募集定員は5年間で変化がなく、1,120人である。これに対して、志願者数は平成16年度の12,207人をピークに、平成17年度、平成18年度がそれぞれ9,492人、7,698人と前年を下回ったが、平成19年度は7,905人なり、前年をわずかではあるが上回った。平成19年度の合格者数3,026人に対して、入学者数は1,381人であり、定員倍率は1.23である。

表4-1-3 学部学科別入学状況

学部/学科	区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
バイオニクス 学部/学科	募集定員	360	360	360	360	360
	志願者	3,516	3,531	2,789	2,040	2,071
	合格者	675	824	911	920	1,024
	入学者(定員倍率)	421(1.17)	443(1.23)	459(1.28)	434(1.21)	431(1.20)
コンピュータ サイエンス 学部/学科	募集定員	360	360	360	360	360
	志願者	3,118	3,996	2,834	2,233	2,068
	合格者	748	792	848	926	1,000
	入学者(定員倍率)	440(1.22)	413(1.15)	444(1.23)	437(1.21)	434(1.21)
メディア 学部/学科	募集定員	400	400	400	400	400
	志願者	4,845	4,680	3,869	3,425	3,766
	合格者	819	881	942	1,007	1,002
	入学者(定員倍率)	476(1.19)	485(1.21)	494(1.24)	486(1.22)	516(1.29)
全学部	募集定員	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120
	志願者	11,479	12,207	9,492	7,698	7,905
	合格者	2,242	2,497	2,701	2,853	3,026
	入学者(定員倍率)	1,337(1.19)	1,341(1.20)	1,397(1.25)	1,357(1.21)	1,381(1.23)

b. 大学院入学状況

- ・ 博士前期（修士）課程の入学状況を表4-1-4に示す。修士課程の定員は平成17年度から140人に拡充された。平成16年度～平成18年度まで入学者は定員を下回り、平成18年度の定員倍率は0.89倍であった。平成19年度に定員拡大後初めて定員倍率が1.0を上回り、1.2となった。

- ・ 博士後期課程の入学状況を表4-1-5に示す。博士課程の定員は少なく、志願者数も多くないが、平成19年度は募集定員6人に対して、入学者10名となった。

表4-1-4 大学院研究科博士前期（修士）課程の専攻別入学状況

研究科/専攻	区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
工学研究科 システム電子 工学専攻 ()	募集定員	24	24			
	志願者	78	54			
	合格者	60	48			
	入学者(定員倍率)	57(2.38)	43(1.79)			
メディア学研究科 メディア学専攻 ()	募集定員	70	70			
	志願者	58	41			
	合格者	56	33			
	入学者(定員倍率)	53(0.76)	29(0.41)			
バイオ・ 情報メディア 研究科	バイオニクス専攻	募集定員		40	40	40
		志願者		30	32	80
		合格者		28	31	78
		入学者(定員倍率)		28(0.70)	31(0.78)	77(1.93)
	コンピュータサイエンス専攻	募集定員		40	40	40
		志願者		35	46	44
		合格者		32	43	40
		入学者(定員倍率)		28(0.70)	37(0.93)	40(1.00)
	メディアサイエンス専攻	募集定員		40	40	40
		志願者		28	25	41
		合格者		26	24	34
		入学者(定員倍率)		23(0.58)	22(0.55)	31(0.78)
アントレプレナー専攻	募集定員		20	20	20	
	志願者		35	43	22	
	合格者		31	37	21	
	入学者(定員倍率)		29(1.45)	34(1.70)	20(1.00)	
研究科計	募集定員	94	94	140	140	140
	志願者	136	95	128	146	187
	合格者	116	81	117	135	173
	入学者(定員倍率)	110(1.17)	72(0.77)	108(0.77)	124(0.89)	168(1.2)

工学研究科およびメディア学研究科は平成17年度より募集停止

表4-1-5 大学院研究科博士後期課程の専攻別入学状況

研究科/専攻	区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
工学研究科 システム電子 工学専攻 ()	募集定員	2	2			
	志願者	3	4			
	合格者	3	4			
	入学者(定員倍率)	3(1.00)	3(1.50)			
バイオ・ 情報メディア 研究科	バイオニクス専攻	募集定員		2	2	2
		志願者		2	1	3
		合格者		1	1	3
		入学者(定員倍率)		1(0.50)	1(0.50)	3(1.50)
	コンピュータサイエンス専攻	募集定員		2	2	2
		志願者		6	0	4
		合格者		6	0	4
		入学者(定員倍率)		6(3.00)	0(-)	4(2.00)
	メディアサイエンス専攻	募集定員		2	2	2
		志願者		3	3	5
		合格者		3	3	5
		入学者(定員倍率)		2(1.00)	3(1.50)	3(1.50)
研究科計	募集定員	2	2	6	6	6
	志願者	3	4	11	4	12
	合格者	3	4	10	4	12
	入学者(定員倍率)	3(1.00)	3(1.50)	9(1.50)	4(0.67)	10(1.67)

工学研究科は平成17年度より募集停止

在籍者の状況

平成19年度の在籍学生の状況は表4-1-6のとおりである。在学生総数は学部全体で5,760人、大学院全体で320人であり、収容定員に対する倍率は、それぞれ1.22倍、1.07倍となっている。

表4-1-6 平成19年度の在籍者数

	学部/学科・研究科/課程/専攻	入学定員	編入学定員		収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	在学生総数	
			2年次	3年次							
学 部	バイオニクス学部/学科	360	18	9	1,512	435	446	463	467	1,811	
	コンピュータサイエンス学部/学科	360	18	12	1,518	441	454	453	446	1,794	
	メディア学部/学科	400	27	12	1,705	564	492	513	565	2,134	
	工学部 ()	電子工学科									8
		情報工学科									4
		機械制御工学科									3
		情報通信工学科									6
	小計									21	
	学部計	1,120	63	33	4,735	1,440	1,392	1,429	1,499	5,760	
大 学 院	バイオ・情報メディア研究科 博士期(修士)	バイオニクス専攻	40		80	77	30			107	
		コンピュータサイエンス専攻	40		80	40	39			79	
		メディアサイエンス専攻	40		80	31	23			54	
		アントレプレナー専攻	20		40	20	37			57	
		小計	140		280	168	129			297	
	博士後期	バイオニクス専攻	2		6	3	1	1		5	
		コンピュータサイエンス専攻	2		6	4	0	6		10	
		メディアサイエンス専攻	2		6	3	3	2		8	
		小計	6		18	10	4	9		23	
		大学院計	146		298	178	133	9		320	
総計		1,266	63	33	5,033	1,618	1,525	1,438	1,499	6,080	

工学部は平成15年度より募集停止

教育環境の維持

授業クラス編成においては、教育効果を高めるため1学年を複数クラスに分け、適切な規模の人数のクラス編成としている。特に、外国語科目、コンピュータリテラシー科目、1年次において学習指導を行う科目(学習技法、フレッシューズゼミ)などにおいては10名~20名程度の少人数編成で行っている。実験科目においても同様に、数名単位で実験を行えるよう十分な設備と機材を確保している。特に、演習・実験科目ではTA(ティーチングアシスタント)を配置して、きめ細かく学生の指導ができるように配慮している。

また、語学授業などの小教室以外の教室では、プロジェクターを完備し、授業を実施している。

なお、学部1学年全員が合同で行う授業においても、実施教室には、大画面(片柳研究所地下大ホール:2画面表示-250インチ・1画面表示-300インチ、メディアホール:1画面表示・2画面表示-250インチ)の映像装置を備えており、快適な授業環境が確保されている。

留年生と退学者数

- ・メディア学部は、2年次進級要件および4年次卒業研究着手要件を設定しており、1年次40名、4年次72名の留年者がいる。また、バイオニクス学部およびコンピュータサイエンス学部では、4年次卒業課題着手要件を設定しており、それぞれ68名、92名の留年者がいる。
- ・退学者の状況は、表4-1-7に示すとおりである。各年度の退学者の総数は、平成16年度

が183人、平成17年度が192人、平成18年度が169人である。退学理由はさまざまであるため、これらの傾向を指摘することは難しい。学年別にみると、1年次と4年次が多いといえる。1年次生については進路上の問題が大であると考えられる。4年次生については、累積した学業不振の問題も大きいと考えられる。

表4-1-7 退学者数

学部/学科	平成16年度					平成17年度					平成18年度					
	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
バイオニクス学部/学科	13	5	0	0	18	7	9	6	0	22	10	14	13	3	40	
コンピュータサイエンス学部/学科	15	13	0	0	28	11	15	9	0	35	11	14	12	0	37	
メディア学部/学科	20	12	11	23	66	26	9	11	16	62	19	6	14	24	63	
工学部	電子工学科	2	4	7	11	24	3	1	2	12	18	0	0	0	5	5
	情報工学科	0	2	6	21	29	3	0	3	20	26	1	0	0	11	12
	機械制御工学科	2	0	4	8	14	2	0	4	12	18	0	0	2	5	7
	情報通信工学科	0	1	0	3	4	0	2	0	9	11	0	0	0	5	5
工学部計	4	7	17	43	71	8	3	9	53	73	1	0	2	26	29	
合計	52	37	28	66	183	52	36	35	69	192	41	34	41	53	169	

(2) 4-1の自己評価

- ・本学の教育目標は明確であり、アドミッションポリシーは進学説明会等で詳しく説明しているほか、AO入試パンフレットに記載されている。表4-1-8は、平成19年の入学者のオープンキャンパスへの参加状況を示している。入学者の61%がオープンキャンパス参加者であることから、アドミッションポリシーは相当に理解され、入学につながっていると判断される。

表4-1-8 新入生アンケートによるオープンキャンパスへの参加状況

	全体		BS学部		CS学部		MS学部	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
参加したことがある	867	61.0%	264	58.1%	269	61.4%	334	63.7%
参加したことがない	520	36.6%	181	39.9%	160	36.5%	178	34.0%
無回答	34	2.4%	9	2.0%	9	2.1%	12	2.3%
合計	1421	100.0%	454	100.0%	438	100.0%	524	100.0%

BS学部：バイオニクス学部 CS：コンピュータサイエンス学部 MS：メディア学部（「新入生アンケート」2007.4.6実施 抜粋）

- ・ユニバーサルアクセスの時代に対応した多様な入試形態を設けている。入試形態に応じた出題、面接を通じ、本学の求める人物像に合致した学生を入学させるよう努力している。結果が出るまでには、さらなる検討と、時間を要すると考える。
- ・大学院入試については、定員充足は達しているが、専攻によってばらつきがある。今後改善する余地がある。学部学生に対して、入学時より大学院進学の意味を説き、大学院の求める知のフロンティアに挑戦できる学生の確保を目指す必要がある。
- ・在籍者の収容定員に対する比率は学部においては1.22、大学院においては1.07であり、概ね良好である。授業を行う学生数は、科目により適正な人数になるよう複数クラスを設けて対応しており、適切である。

(3) 4-1の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 本学の基本理念に基づき、アドミッションポリシーの理解を一層促進するために、大学案内、募集要項など本学のさまざまな広報資料、入試関連案内にそれを明記し、徹底を図る。
- ・ 本学の基本理念を実践するための行動規範であるOnly one, Best Careについて受験生や保護者、高校教員の理解を促進するために、その取組みや実施例をまとめたパンフレットの作成なども必要である。
- ・ 今後、履修指導をより充実し、留年者や退学者を出さないようにすることが重要な課題であり、Only one, Best Careの具体的実現を目指す。
- ・ 大学院については、学部在学学生に対し、1～2年次の段階から大学院進学を意識付けを行う必要がある。そのため、各学部の年次ガイダンスや大学院進学説明会の機会を利用し、引き続き大学院進学の意味を説き進学希望者の拡大を図る。
- ・ 収容定員と入学定員については現状の水準を維持し、授業を行う学生数についても現在と同様の管理方法により適正化を図る。

4-2 学生への学習支援の体制が整備され、適切に運営されていること。**〈4-2の視点〉**

- 4-2- 学生への学習支援体制が整備され、適切に運営されているか。
- 4-2- 学士課程、大学院課程、専門職大学院課程等において通信教育を実施している場合には、学習支援・教育相談をおこなうための適切な組織を設けているか。
- 4-2- 学生への学習支援に対する学生の意見等を汲み上げるシステムが適切に整備されているか。

(1) 4-2の事実の説明（現状）

本学は、学生に対するベストケアを最重要施策としており、全学的な学習支援に教職員が一丸となって取り組んでいる。

基礎学力の向上

本学の求める人材を募集するために、多様な入試形態をとっている（前述）。その結果、大学で学ぶために必要な基礎科目についての習熟度合が学生により異なる点を考慮する必要がある。そのために、入学前準備教育と入学後補習教育を実施して、スムーズな科目履修が可能になるように配慮している。

・ 入学前準備教育

推薦入試、編入学入試、AO入試による入学予定者を対象に、「数学」、「英語」、「物理」、「化学」の4教科について、通信添削による入学前準備教育を実施している。各学部において必要な科目を選択し、大学で学ぶうえで必要な基礎学力を身につけ、入学後にスムーズな科目履修を可能にする取組みである。

・ 入学後補習教育

入学後には、「数学」、「物理」、「化学」についてプレースメントテストを実施し、基礎学力が十分でない学生を対象に、補習教育として課外授業を開講し、学力の向上を図っている。予備校と本学の教員が作成したテキストを用いて、きめ細かく丁寧に指導している。

学内情報ネットワークによる多様な学習支援

学部学生はノートパソコン（ノートPC）を必携としており、高度に整備された大学ネットワークに接続することにより多くの情報サービスを受けられる。Webページからは、学習計画書（シラバス）はもとより、教員が準備した授業関連のコンテンツなどをリアルタイムに得ることができる。それ以外に、教室変更案内、休講・補講案内などの授業関連情報もリアルタイムで閲覧可能である。教員のメールアドレスを開示しているため、学生はネットワーク環境を活かした学習相談をいつでも、どこでも受けることができる。

このように学生生活を送るうえでノートPCは必要不可欠なものであるため、ノートPCの故障への対応や使い方のアドバイスを行うノートPCサポートセンターを設置しており、年間延べ4,000名程度の学生が利用している。

学習技法・フレッシューズゼミ

1年次に少人数クラスにより学習指導をきめ細かく行うための科目を各学部で開講している。バイオニクス学部およびコンピュータサイエンス学部では学習技法、メディア学部ではフレッシューズゼミと称する科目である。これらの科目を履修することにより、学生は教員と知り合い、友人を作り、大学生活にスムーズに入るとともに、学び方、コミュニケーションの仕方、将来の計画などについての知識を獲得できる。

学習成果のフォローアップ

・成績表のフィードバック

学習の結果である成績を保護者および本人にフィードバックすることは当然であるが、年度途中の学習計画の改訂や新年度計画の作成に反映できるようにするため、本学では、3月と9月の年2回、成績表を学生と保護者に対して郵送している。あわせて、教務課においてEメールや電話等による学習相談を行っている。

・三者面談、父母懇談会の実施

2年次生以上の学生の保護者に希望をとり、5月中旬に学内において、学生、保護者および教員による三者面談を実施し、適切な履修指導および進学、就職相談を行っている。平成18年度は589組の参加があり、これらすべてに対応している。また、学内のみならず、父母懇談会を全国18箇所の地方会場で実施し、保護者に対して便宜を図っている。また1年次生に対しては、前期修得単位数の少ない学生を対象に、10月の学園祭に合わせて本学で三者面談を行い、問題の早期発見や早期指導を行っている。

障害のある学生に対する支援

障害のある学生については、学生課と教務課が連携し、当該学生が履修する授業科目の教員に対して、本人の了承を得たうえで、障害の程度を伝達し、補助的な文字資料などの用意を要請し、健常者と同一レベルの履修環境が得られるよう努めている。特に聴力障害者については、ノートテイクが必要な場合には学生ボランティアのノートテイクを配置し、障害のある学生に対するベストケアを実践している。

学生窓口

履修や学生生活に関する相談を聞く場として、教務課、学生課、大学院課がある。これらの窓口は、授業開始時間前の8時45分から授業終了時間を過ぎた19時まで開いており、丁寧で真摯な対応を行っている。

授業評価

本学ではすべての授業について、学生に授業評価アンケートを依頼している。アンケートは、授業期間の中間に実施しており、結果を教員にフィードバックし、以後の講義組立、実施に役立てるようしている。

在学生調査

卒業間近の4年次生を対象に、在学生調査を実施した。学生生活4年間を振り返って、大学に対する要望や意見が寄せられた。本学では貴重な学生の意見を集計し、Only one, Best Careを実行するための大切な基礎データとしている。

(2) 4-2の自己評価

- ・学生への支援は、本学のミッションであるベストケアの一環として、大学事務局各課の業務、教務委員会、学生委員会の活動を通じて、教職員が一丸となって行っている。これらの活動においては、常に、学生支援に関する意見やアイデアが提案、議論され、改善を実施している。
- ・ますます多様化する大学生にどのような学習支援を行うべきか、大きな課題といえる。本学では、前項で述べたとおり、入学前準備教育、入学後補習教育など、多様化する入学者への対応を図る一方、学習技法、フレッシューズゼミにより大学における学習方法を懇切丁寧に指導する点に重点を置いている。さらに、大学の高度に整備されたネットワーク環境と、ノートPC必携という利点を活用して、各授業の教材を多様かつ柔軟に提供することにより、適切な学習支援ができると考えている。これらの方法は一応効果をあげていると考えているが、支援策については今後とも教務委員会などで検討を重ねていく。
- ・大学に対する学生の意見は、授業評価アンケート、窓口での相談、Eメールなどで受付けている。
- ・在学生については、本学のOnly one, Best Careの使命を徹底し、退学者をなるべく出さない対策支援を実施していく必要がある。
- ・入学前準備教育・入学後補習教育を行っており、一定の成果をあげている。

(3) 4-2の改善・向上方策（将来計画）

- ・学習支援のベストケアの一施策として平成19年度から学習支援センターを設置する。学習支援センターでは、高等学校退職教員や大学院生が「数学」、「物理」、「化学」、「コンピュータプログラム」をわかりやすく教え、授業の理解と円滑な学習のサポートを実現する。
- ・学生の意見を汲み上げるために、これまで4年次生を対象に実施していた在学生調査を1～3年次生に拡大して実施する。その結果を全教職員に対し公表し、かつ、改善策を教務委員会、学生委員会等で協議し、速やかに対応する。
- ・退学者をできるだけ出さないために、学習支援、学生生活支援を今まで以上に実施するとともに、入学した学生が本学において学ぶ目標を持つような工夫をする。

4-3 学生サービスの体制が整備され、適切に運営されていること。

《4-3の視点》

- 4-3- 学生サービス、厚生補導のための組織が設置され、適切に機能しているか。
- 4-3- 学生に対する経済的な支援が適切になされているか。
- 4-3- 学生の課外活動への支援が適切になされているか。
- 4-3- 学生に対する健康相談、心的支援、生活相談等が適切におこなわれているか。
- 4-3- 学生サービスに対する学生の意見等を汲み上げるシステムが適切に整備されているか。

(1) 4-3の事実の説明（現状）

学生サービス・厚生補導

・組織

本学の学生サービス体制については、大学事務局、学生委員会などで組織的に検討している。サービスの実施に際しては学生相談室、医務室が加わっている。その他、科目履修を通じて行われるものもあるが、特に、「学習技法」、「フレッシューズゼミ」の履修を通じて行われる教員との対話は重要である。

・大学への交通アクセス

大学への通学用とし、最寄駅である八王子みなみ野駅とキャンパス間にスクールバスが運行されている。混雑時間帯は随時出発するシャトル便として利用できる(1日約250便)。また大学近辺に在住する学生に対しては、オートバイや自転車による通学を認め、学内には駐輪場(1,500台収容)を完備している。

・学生寮の整備

八王子みなみ野駅前にある学生会館(寮)を整備し、地方出身学生432名(平成19年5月1日現在)が利用している。

・食堂などの厚生施設

栄養バランスを考えた食事が重要であり、厚生棟には、定食や麺類などを提供する五つの食堂があり、レストランモールのフーズフーには、吉野家、マクドナルド、一口茶屋、ドトールコーヒー、C&Cカレー、クロワッサンハウスなど、学生の食生活を十分補う施設を設けている。

・ブックセンター、コンビニエンスストアなど

学内に、ブックセンター、コンビニエンスストア(サンクス)、郵便局ATM、銀行ATM、ネットワークが自由に使えるネットカフェ、メディアロビー、学生のリラクゼーション施設等としてのボーリング場や遊歩道が整備されている。

・留学生支援

外国人留学生(新入生および編入生)に対し、入学後1年間、同じ学部の先輩が日常生活や履修、学習等の相談に応じるチューター制度を設けている。チューターは留学生の日本における生活の大切なサポート役となる一方、日本人学生にとっては一番身近な異文化コミュニケーションの機会となっている。

経済的支援

・学費の分納と延納

学費納入については、家庭の経済状況により学生や保護者からの分納や延納についての相談や申し出を受け、学生一人ひとりへの家計状況に応じた丁寧な対応を行っている。

・奨学金

学生に対する経済的支援として各種奨学金制度がある。日本学生支援機構により提供されるものがほとんどであるが、それ以外に、地方公共団体および民間の奨学金、学習奨励費がある。私費外国人留学生に対する奨学金も日本学生支援機構や公共団体から提供されている。本学は、4月上旬に奨学金説明会を開催し、給付の希望者を募ると同時に、学生課の窓口で個別相談を受け付けている。奨学金の利用状況(日本学生支援機構奨学金)は表4-3-1に示すとおりである。これ以外に地方公共団体の奨学金を利用している学生数は、全学で20名程度である。

表4-3-1 日本学生支援機構奨学金利用者数（平成19年3月1日現在）

学部・研究科	第一種	第二種	計
バイオニクス学部	148名	481名	629名
コンピュータサイエンス学部	139名	444名	583名
メディア学部	123名	394名	517名
工学部	1名	13名	14名
バイオ・情報メディア研究科	51名	27名	78名
計	462名	1,359名	1,821名

- ・成績優秀学生表彰

学生の学ぶ意欲を向上させる取組みとして、毎年度、成績優秀学生の表彰を行っている。これは各学部から選ばれた、前年度の成績優秀学生を表彰し、副賞として40万円を授与する制度であり、学生の経済的サポートになっている。表彰学生数は、表4-3-2に示すとおりである。

表4-3-2 成績優秀表彰学生数

学部	2年次生	3年次生	4年次生
バイオニクス学部	6人	6人	6人
コンピュータサイエンス学部	6人	6人	6人
メディア学部	7人	7人	7人

- ・TA（ティーチングアシスタント）、RA（リサーチアシスタント）、SA（スチューデントアシスタント）制度

大学院学生に対するTA制度とRA制度、学部学生に対するSA制度を設けている。特に大学院生にとって、TAやRAに就くことは、教育研究活動の実際に触れることであり、自分を磨く良い機会となっている。また、対価は大学院生に対する経済的援助の側面もあり、TAについては、1コマ（90分）4,000円、RAについては、1時間あたり、修士課程在学学生は1,600円、博士後期課程在学者は2,000円としている。TAには多くの大学院学生（202名 / 320名）が就いており、学部教育の一助ともなっている。また、RAとして産学官の共同研究に参画することで、学術研究の一層の推進と教育への反映も実現してきている。

- ・教育訓練給付制度

大学院のすべての専攻が厚生労働省の教育訓練給付制度の指定講座の認定を受けている。実際、この制度の存在が、社会人がキャリアアップのために大学院に入学する動機づけの一助になっている。

- ・スカラシップ制度

本学のミッションに基づき、広く優秀な学生を募り、未来社会を先導できる技術者としての人材を育成することを目的とした「スカラシップ制度」を設けている。本制度は返済の必要がなく、入学試験の成績上位者に年間120万円を4年間支給している。平成15年度～18年度までの受給者実績は表4-3-3に示すとおりである。

表4-3-3 スカラシップ制度受給者数

学部	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
バイオニクス学部	84名(12名)	64名(12名)	54名(10名)	42名(10名)
コンピュータサイエンス学部	8名(8名)	16名(9名)	25名(10名)	32名(9名)
メディア学部	10名(10名)	20名(11名)	28名(8名)	33名(7名)
合計	102名(30名)	90名(32名)	107名(28名)	107名(26名)

()内は当該年度入学者数

- ・私費外国人留学生授業料減免制度

私費外国人留学生の授業料を減免し、経済的負担を軽減することを目的とした「東京工科大学私費外国人留学生授業料減免制度」を定めている。学部または大学院の正規

課程に在籍する「留学」の在留資格を持った、学業成績優秀者で、経済的に困難な者を対象とし、申請年度限りとするが、授業料年額の3割を減額している。

・学生アルバイトの斡旋

学外アルバイトについては、学生課において、学業と両立可能な優良なアルバイト先を紹介している。

課外活動

学生が課外活動を通じて、充実した大学生活を過ごすことは、人間形成にとって大切である。本学では、課外活動組織として「体育会」と「文化会」のサークルがあり、合わせて61団体が活動をしている。その他に学生主体の組織として、「紅華祭実行委員会」、「スポーツ大会実行委員会」、「新入生歓迎会実行委員会」等が組織されている。課外活動が円滑に行われるように学生課が窓口となり、強力な支援・指導を行っている。大学は経済的支援のみならず、施設利用面でさまざまな支援を行っている。金銭的な支援は、大学からの援助金および入学時に徴収する課外活動費（20,000円）により行っている。また、施設として、部室を41室用意し提供しているほか、放課後は空き教室や充実した体育施設（グラウンド、体育館、水泳プール、テニスコート等）を提供している。学生主体の課外活動が円滑に行なわれるように、毎年度初めに、各団体の代表者を集め、1泊2日でリーダースキャンプを実施している。このキャンプでは、リーダーとしての自覚を認識させ、サークル間の連携、協力体制を築き、各団体が抱える諸問題についての意見交換を行っている。また、大学への要望を汲み上げるよい機会ともなっている。

健康相談・心的支援・生活相談

・健康相談

充実した学生生活を送るためには、健康な身体を維持することが非常に重要である。医務室では看護師が月曜日から土曜日の9時～17時の間、怪我や病気に対する処置や学生の健康相談に応じている。また、専門医による健康相談を月に2回実施している。

・学生相談室

学生相談室では、メンタルヘルス、就学・進路、対人関係等についての悩みなどを5名の相談員が月曜日から土曜日の13時～17時の間、受付けている。平成18年度の延べ利用件数は405件であり、前年比で192件の減となっている。

・セクシュアル・ハラスメント防止

セクシュアル・ハラスメント防止委員会を設置し、啓蒙および防止に努めると同時に、問題が発生した場合に対処している。セクシャル・ハラスメントを未然に防ぐため、学生便覧、学内Webに関連規程を掲載し、かつ各種ガイダンスで周知をしている。教職員で構成するセクシュアル・ハラスメント相談員を各学部に配置し、学生からの苦情相談、電話およびEメールによる相談を受付ける体制を整えている。

(2) 4-3の自己評価

- ・学生の厚生補導については、組織体制面、施設面で学生が安心して学生生活を送れるように整備されていると考えている。もちろん、さらなる改善充実を図るべく努力が必要である。
- ・奨学金、成績優秀学生表彰、スカラシップ制度ではカバーできない部分がある。そのため、家計の事情で、学業を続けることが難しい場合には、学費納入の分納や延納などを認めているが、十分ではない。
- ・課外活動（体育会、文化会）および学園祭実行委員会などの各種実行委員会に対して

は、適切な支援ができていると判断する。工学系大学の中においては活発な活動が行われており、クリケットクラブなど各種大会等で優れた成績を残すサークルも存在する。また、オープンキャンパスやその他学内の行事に学園祭実行委員会等の各種実行委員会やサークルが積極的に参加し、受験生や学外者に学生生活の一端を披露している。

- ・ 課外活動は、学年を越えた縦の人間関係と学部を越えた横の人間関係作りに大いに役立ち、人格形成面でも有益な場となっている。
- ・ 学生に対する健康相談、メンタルヘルスケア、学生生活相談は主に、医務室、学生相談室で対応しているが、対応の記録などから判断すると、学生の心身の健康管理については適切に行われていると判断する。また、学生相談室担当員もしくは各学部学生委員長が、アゴラ（教育研究の討論の場）で教員に対して相談室の利用状況や相談傾向を説明し、学生が抱える悩みや問題について共通の認識を持つことにより、学生へのベストケアに繋げるようにしている。
- ・ セクシュアル・ハラスメントの防止については、学生便覧や学内Web、ガイダンスで周知をはかる努力をしている。
- ・ 学生サービスに対する学生の意見は窓口で個別に汲み上げられるが、必ずしも十分ではない。

(3) 4-3の改善・向上方策（将来計画）

- ・ これからも大学に対する学生のニーズに応え学生へのベストケアを実現するために、平成19年6月から学内3箇所に意見箱「BBC（BOX for BEST CARE）」を設置するなど、学生の意見を積極的に汲み上げる方策をはかる。
- ・ 学生の心身に対する支援は組織体制が整備され、機能している。今後も状況をよくモニターし、この体制維持と改善に努める。
- ・ 経済的支援については、十分とはいえないので、本学独自の奨学金の設置や同窓会などと連携した奨学金の設置などを検討する。学生委員会、同窓会で協議を行い、学生のニーズに合った奨学金を検討し、安心して学べる環境づくりを行う。
- ・ 外国人留学生に対する支援は組織体制が整備されているが、留学生の意見を聞く場などを設け、学生委員会等を中心に留学生のベストケアを実現していく。
- ・ 本学の充実した施設、教育環境を利用した課外活動の活性化を今後も推進していくとともに、学生の声を汲み上げ、課外活動と学業の両立を目指す体制を堅固なものとする。

4-4 就職・進学支援等の体制が整備され、適切に運営されていること。

〈4-4の視点〉

- 4-4- 就職・進学に対する相談・助言体制が整備され、適切に運営されているか。
- 4-4- キャリア教育のための支援体制が整備されているか。

(1) 4-4の事実の説明（現状）

相談・助言体制

キャリアサポートセンターには、専任職員7名、パート1名と外部の専門家（キャリアアドバイザー等）4名を配置し、求人申込票発送、受付、公開、就職資料の整理、充実、個別相談、企業訪問等を行い、学生の就職支援をしている。

全体的な就職指導方針の策定は、就職委員会ならびにキャリアサポートセンターで行っている。就職委員会は各学部組織されており、学部長が指名する委員長のほか、各学部で選出する10名前後の企業出身の教員と大学事務局から委嘱される1名の職員をもって構成されている。

企業情報へのアクセス向上

企業情報は独自のデータベースで検索できるようにしている。登録企業は25,000社を越え、学内10,000箇所の情報コンセントから利用できるようになっており、また、VPN(Virtual Private Network)により自宅からの検索も可能となっている。

指導の高度化

学生の本格的な就職、進学準備は3年次から始まり、就職関係行事は表4-4-1に示すとおり、時期に応じて実施している。また、メディア学部では「キャリアデザイン」、バイオニクス学部およびコンピュータサイエンス学部では「雇用環境学」という科目を3年次前期に用意している。主に課題解決、創造技法を使った自己開発プランニングからコミュニケーショントレーニングまで、求められる人材を目指した能力開発を目的とし、外部のエキスパートに依頼して実施している。また、個別面談、就職相談を随時受け付け、就職に関する様々な疑問や不安等に対して適切なアドバイスや企業情報等の提供を行っている。相談員の中にはGCDF-Japan キャリアカウンセラー、キャリアカウンセラーCDA、産業カウンセラー、心理相談員の資格を持つ者もいる。なお、音楽、放送、化粧品、食品の業界へ就職を希望する学生のために業界OB等の外部の専門家を4名相談員として配置している。これらの支援、指導を実施することにより就職意識の高揚、スムーズな就職活動、そして、フリーター、ミスマッチ就職等を防ぐなどの効果に繋げている。

個別企業セミナーの開催

学内において個別企業セミナーを実施し、身近に就職の機会を設け(参加企業50社、参加学生延べ数271名)このセミナーにおいて企業と接触した学生のうち、54名(20%)の学生が後日内定を得ている。〔平成18年度実績〕

大学院進学

進学相談は大学院課で随時受けけるとともに、進学ガイダンス等を年に数回開催している。

就職ガイダンス、説明会等

表4-4-1に示すとおり、学生に対して丁寧な就職支援を実施している。

表4-4-1 3年次就職関連行事

時期	項目	内容
4月	進路ガイダンス	就職への心構えと準備、就職活動の進め方、大学院進学について等
5月, 7月, 11月, 12月	業界研究会	企業人事担当者などによる業界・企業の現状・求める人材像などについての講演
6月	就職適性検査	今後の自己分析をするための診断検査
7月	公務員ガイダンス	公務員を目指す学生に対する説明会
9月	企業見学訪問	就労の現場を見学
10月, (1月)	就職ガイダンス	4年次生による就職活動体験談報告会(3年次) 自己分析の進め方、業界研究・企業研究について等
10月-11月	就職模擬試験	SPI能力模擬検査、一般常識模擬試験、公務員全国公開模擬試験
11月	就職いるは相談会	内定取得4年次生による合同就職相談会
12月	就職直前対策講座	履歴書・エントリーシートの書き方講演および試験 面接・マナーについての講演および公開模擬面接会
12月	女子学生就職座談会	専門家による講演、就職活動での注意点等、 4年次生とのディスカッション
12月, 2月	学内合同企業セミナー	学内での会社説明会

資格取得支援等

就職に役立つ資格取得支援として、情報処理技術者試験、TOEIC IP 試験、CG クリエイター・CG エンジニア・CG エンジニア・マルチメディア検定試験、MIDI 検定試験における学内団体試験の実施や公務員ガイダンス、公務員直前対策講座、情報処理技術者試験対策講座を実施している。

(2) 4-4の自己評価

- ・就職支援体制のもと、表 4-4-2 に示すとおり、ここ 2 年間の就職率（求職者 / 就職希望者）は全学部とも 95% 以上で推移している。

表 4-4-2 就職率

学部・大学院	年度	卒業者	求職者	就職者	就職率%
メディア学部	平成 17 年度	386	317	302	95.3
	平成 18 年度	433	349	346	99.1
バイオニクス学部	平成 18 年度	351	247	247	100.0
コンピュータサイエンス学部	平成 18 年度	347	302	302	100.0
工学部	平成 17 年度	604	511	499	97.7
	平成 18 年度	52	42	42	100.0
バイオ・情報メディア研究科	平成 17 年度	54	45	45	100.0
	平成 18 年度	95	68	68	100.0

- ・就職支援検索システムを一新した結果、求人受付から公開までの時間が短縮され、学生は学内からはもちろんのこと、所定の手続きを踏めば自宅からも Web 上で求人情報を 24 時間閲覧できるようになった。学内・学外問わず、求人情報を提供できるようになり、学生からも好評を得ている。

(3) 4-4の改善・向上方策（将来計画）

近年の企業の採用活動は「早期化」、「長期化・通年化」、「厳選採用」、「多様化」しており、会社説明会・採用選考の時期は前倒しとなり、学生は企業研究や自己の適性などを明確につかめないうまま就職活動を開始しているというのが現状である。さらに長期的に就職活動が続くため、学生が就職活動で消費するエネルギーは相当なものとなっている。採用の選考方法においても各企業のニーズに合わせて多様化しており、インターネットによるエントリー、企業独自様式のエントリーシート、論文や作文の実施導入、面接重視など、以前のような数合わせ採用から、「質重視」の方向に変化してきている。企業の選考において求める能力は、「コミュニケーション能力」、「チャレンジ精神」、「主体性」、「協調性」、「誠実性」、「責任感」などが一般的となっており、このような企業のニーズに対応することが求められている。これらに対応するため、以下の方策を講じることとする。

- ・2 年次からキャリア形成に関連した授業科目の開講を教務委員会で検討する。
- ・多くの学生が就業体験できる場としてインターンシップの受入企業の開拓を強化する。
- ・外部の専門家（キャリアアドバイザー等）との連携を図る。
- ・公務員講座、TOEIC 対策講座、課外英会話講座、情報処理技術者試験対策講座などの資格支援講座の充実を図る。
- ・就職連絡会、各学部就職委員会および卒業指導研究指導教員とキャリアサポートセンターとの連携を強化し、個々の学生の就職状況を把握して対応し、きめ細かな就職指導へと繋げる。

[基準4の自己評価]

入学から就職までのすべての学生生活において、ほぼ満足できる学生支援体制を整えていると考える。主要事項の自己評価結果は次のとおりである。

- ・開学して21年しか経ていない新設の大学であるが、表4-4-3に示すとおり、本学の教育目標、アドミッションポリシーが理解され、近年全国から志願者を集めている。

表4-4-3 地域別志願者数

学 部	北海道	東北	関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・ 沖縄	その他	合計
バイオクス学部	14	88	1,608	134	14	99	19	22	13	30	30	2,071
コンピュータ サイエンス学部	5	68	1,441	187	30	125	23	40	24	55	70	2,068
メディア学部	46	186	2,577	304	50	211	49	68	59	117	99	3,766
計	65	342	5,626	625	94	435	91	130	96	202	199	7905

- ・学生の学習支援は、入学前準備教育から入学後補習教育や学習支援センターの設置、学習技法、フレッシューズゼミなどの授業科目による学習指導など、学びのベストケアが適切に行われている。
- ・学生の健康管理については、組織的な取組みが行われている。
- ・学生の経済支援は、学費支払者の家計状況により、学費納入期限を延長できる延納を認める制度や分割で納入できる分納制度を整えており、効果を発揮している。
- ・学生の課外活動については、環境が整備され、活発な活動が行われている。
- ・就職支援については、充実した組織体制が構築され、教職員が一丸となって行っており、高い就職率を達成している。

[基準4の改善・向上方策（将来計画）]

学生からのニーズは日々変化している。現状に甘んじず、学生が充実した学生生活を送れるように臨機応変に対応していきたい。

- ・社会的ニーズや志願者の動向を分析し、それぞれに対応した入学者選抜の方法を開発する。また、教育研究組織を強化し、学生が Only one, Best Care（OBC）を実感できるシステムへ昇華させる。
- ・在学生調査の実施や意見箱の設置など学生の意見を汲み上げる機会を増やす。その結果を検討し、教職員で問題を共有しながら、学生へのベストケアを実現するため、具体的な取組みを行っていく。
- ・大学院進学支援については、学部への入学段階から進学意欲を培うことが重要であり、教員および大学院課が連携を強化し、組織的な取組みを行う。